

NICE SMILE

2014
夏
VOL.58

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター●院外・院内広報

発行・責任者：広報誌編集委員会委員長 森朝 紀文 / 〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23 TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/



Photo by 野島 良子氏



りんくう総合医療センター副病院長、
地域医療サービスセンター長・心臓センター長

地域の力、病院の力

永井 義幸

表紙の写真は犬鳴山での渓流の写真です。今年当センターの仲間になっていただいたプロのカメラマンであり、現在病棟クラークをされている野島良子さんの作品です。まだまだ暑い日々が続きますが、清涼感を少しでも感じていただければ幸いです。

さて、りんくう総合医療センターには数多くの職員が勤務しております。病院のホームページにも記載しておりますが、今年4月1日現在で、医師143名、看護師488名、医療技術員127名、看護助手・病棟クラーク59名、事務系職員125名の合計943名の大所帯です。現在の医療はますます複雑化し迅速さを求められ、以前のように医師、看護師だけでは成り立ちません。入院であれ外来であれ、病院を利用される方が病院の門をくぐってから、医療サービスをうけられ会計を終え病院をあとにされるまで、数多くの職員と関わることとなります。病院の中のいろんな職種の方々の仕事ぶりやお顔、考え方を病院の利用者の皆さまに見える形でお伝えするのも、この広報誌Nice Smileの大きな役割です。また病院に勤務するものにとっても他の部署がどのような活動を始めたかなどを知る良い機会になれば幸いです。病院に勤務する職員ひとりひとりの力、そしてその総力が病院の大きな力となります。

南泉州のりんくう地域において、当センターは医師会の推薦のもと地域支援病院の大役をいただいております。泉州南部の医療をこの地域の多くの行政・医療・介護の関係者の皆さま方と守り、よりよいものに育てていきたいと願っております。りんくうの医療圏は大阪中部、和歌山市内とも距離を有し、比較的独立した医療環境にあります。現在、国のめざしている地域完結型の医療は、まさにりんくう地域にこそ適合しており、そのためにもしっかりと育て根づかす必要があります。りんくう総合医療センターはこの地域の現状を踏まえ、関係者の皆さまと「いま」「これから」に適合する医療体制の整備を考え進めてまいりますので、引き続きご支援をお願い申し上げます。

CONTENTS

表紙写真：「犬鳴山渓流」..... 1	人工関節センターがテレビ・新聞で紹介されました..... 3
「地域の力、病院の力」副病院長 永井 義幸	部門紹介「脳神経センター」「中央検査部」..... 4
理事長メッセージ 理事長 八木原 俊克..... 2	登録医ご紹介..... 5
第6回 りんくう緩和ケア研修会	「中川クリニック」「医療法人小川歯科」
一次救命処置(BLS)講習会を開催 3	時間外選定療養費について／七夕飾り／編集後記 6

理事長メッセージ

地域が一丸となる!



「医療機関完結型医療から地域完結型医療へ」という標題はいつ頃からあるのでしょうか。第5次医療法改正の検討段階でこの標題が言われていたことから、少なくとも10年以上になると思いますが、地域連携パスは一定の普及がみられるものの、目標にはほど遠く、現在、医療は在宅・介護との密な連携が重要課題になっています。医療は地域性が強いことから、地域における独自の工夫と努力が不可欠ですが、そのためには地域が一丸となって対応することが重要です。その第一歩は、関連する情報を互いにシェアすること、状況理解を共有することから始まると思います。

2025年問題をはじめ、近い将来における大きな変化と深刻な課題が予想され、病院においては病床配分の見直しなどが急務になっていきますが、目先の課題に迅速に対応するとともに、その先を読むことも重要になっていきます。必ずしも読み切れないのは政策や制度の改正・改定ですが、医療や介護の世界では、医療機器や薬よりも、人が一番大事であるという考えから、人材育成は急務であり、教育研修についても地域で一丸となる必要があるのではないのでしょうか。

また、急性期疾患の多くは前触れとしての慢性期状態があり、日本では実は急性期疾患対策よりも慢性期疾患対策が不十分であるという指摘もあることを考えると、先には地域医療連携に加えて検診事業や予防などを含めた地域における多角的な健康推進対策が政策の柱になることも考えられます。なすびんネットの応用も大きな効果が期待でき、また、地域における住民参加型の啓発活動の重要性が益々高まることも考えられます。いずれにせよ、医療・介護、そして行政の方々が一丸となって考える必要がある課題とっております。

大変悩ましい時期ですが、今後とも益々、皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

地方独立行政法人
りんくう総合医療センター理事長

八木原俊克



第6回 りんくう緩和ケア研修会

平成26年 5月17日・18日 開催

5月17日、18日の二日間にわたり、第6回りんくう緩和ケア研修会が開催されました。

緩和ケア研修会は、がん診療に携わる医師が緩和ケアについての基本的な知識を習得し、治療の初期段階から緩和ケアが提供されるようにすることを目的としたもので、今回で6回目の開催となりました。

講義やロールプレイ、ワークショップ等を行い、2日目の研修会の最後には、医師を含めた様々な職種の参加者が修了証書を受け取られました。全体を通じた参加者の闊達な議論や熱気で、研修会は盛況のうちに終わりました。



全職員対象 一次救命処置(BLS)講習会を開催

教育研修委員会
急性期ケア推進室
医療安全管理室

松岡 哲也
藤原 由子
河野 純子

皆さん『AED』をご存知ですか？

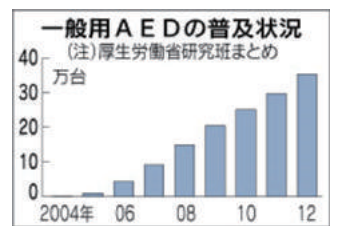
当センターの2階中央受付（再来受付機の隣）に設置しています▶



AEDは、Automated External Defibrillatorの略で、自動体外式除細動器のことです。突然に心停止に陥った方のなかには、この機械を迅速に用いることで、一命をとりとめ社会復帰できる方が沢山いらっしゃいます。

このような医療機器は医療従事者しか使用できないと思いませんか。消防署などが開催する救命講習会を受講すれば、一般市民でも使用できます。

7月3日付の日本経済新聞夕刊に、『AEDが、一般市民に“解禁”されて10年となる。設置台数は全国で30万台を超え、いたる所で見かけるようになった。』『一方で課題になるのが、活用件数だ。総務省消防庁などによると、2012年に心肺停止で救急搬送された事例(約2万3千件)で、救急隊到着前にAEDを使用した市民は881人(3.7%)にとどまる。全てのケースでAEDが使えたわけではないが、市民の活用は伸びていない。』という記事が掲載されていました。



突然に心停止に陥った方を救命するためには、第一発見者による『絶え間ない胸骨圧迫(心臓マッサージ)』と迅速なAEDの使用が重要です。一般市民でもできる救命処置を一次救命処置(BLS:basic life support)と言います。



昨年度、りんくう総合医療センター内でも一次救命処置を必要とする緊急事象が数件発生しています。病院内であっても、そういった事態の第一発見者が医療従事者とは限りません。当然そのような緊急事象に対応するために医師看護師の緊急招集システムを整備していますが、医師看護師の到着を待つことなく第一発見者が確実な一次救命処置を実施することが重要です。

そこで当院では、教育研修委員会、急性期ケア推進室、医療安全管理室が協働で、全職員を対象とした一次救命処置(BLS)講習会を開催しております。今後も、全職員が繰り返し受講できるように継続的に講習会を開催し、患者さんあるいはご家族さんの急変に対し、第一発見者が職種の如何にかかわらず迅速的確に対応できるように努めます。

人工関節センターが テレビ・新聞で紹介されました

人工関節センターでは、人工関節置換術を高い精度で安全に行える「コンピュータナビゲーションシステム」を導入しています。また、3Dプリンターや歩行アシストロボットも活用しております。こうした取り組みが、テレビや新聞で紹介されました。



■テレビ朝日 モーニングバード！（7月28日放送）
「アカデミヨシズミ
～歩くのも苦痛になる“変形性股関節症”の治療最前線」

■産経新聞（5月13日付け）
「「人工関節」置換手術
正確、安全に 普及するコンピューターナビシステム」

部門紹介1

脳神経センター

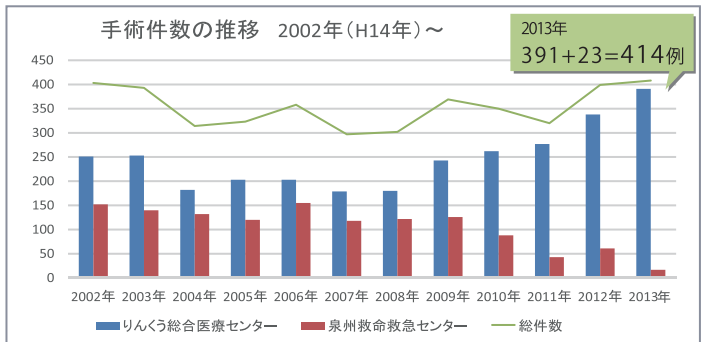
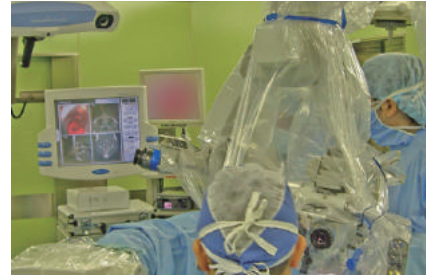
脳神経センター長 森内秀祐



脳神経センターは、脳神経外科、神経内科の2科にて構成される脳神経疾患全体を治療するセンターです。脳神経外科医5人(うち専門医3人)、神経内科専門医1人の計6人を中心に、リハビリテーション医師、脳外科専従看護師、医療相談員を加えたチームで診療にあたり、脳脊髄腫瘍、脳卒中、パーキンソン病、正常圧水頭症、顔面痙攣、三叉神経痛などの脳神経疾患全般に対し、専門性の高い治療を提供しています。

脳神経外科手術においては、最新のニューロナビゲーター(複雑な脳内の正確な位置決め役立つ手術用ナビゲーション・システム)、神経内視鏡、高性能手術顕微鏡、超高速ドリルなどを導入し、より安全で確実性の高い手術の提供を行っております。特に脳腫瘍手術で5-ALA蛍光観察により腫瘍残存が観察可能であり、ICG蛍光観察により脳血流が可視化され、手術の確実性が高くなっております。救命センターとの統合により、脳卒中患者の救急搬送はすべて救命センターにて受け入れられ、高度脳損傷・脳卒中センター病床入院となり、救命センター医師と協力して脳神経センター医師が管理を行います。脳神経疾患を24時間受け入れ可能な体制の整った、府内でも最も充実した病院の一つです。

	症例数
腫瘍部門	47例
血管部門	39例
外傷部門	148例
機能部門	48例
血管内治療部門	60例
総数	391例



部門紹介2

中央検査部

中央検査部 技術科長 三ノ浦保彦

臨床検査は、患者様の病気の診断や治療方針の決定、病気の経過等を判断する上で重要な指標となります。臨床検査は大きく分けて、血液や尿等の患者様から採取した検体を分析する検体検査と心電図や脳波・超音波検査のような患者様を直接検査する生理機能検査の二つに分けることができますが、当検査部では更に検体検査を生化学・免疫、血液、一般、輸血、細菌、病理の6部門に分け検査業務を行っています。

我々検査部では、患者様に迅速・的確な医療を受けていただくために、迅速で精度の高い検査データを提供するよう日々努力を重ねています。そのため、特に次の3点に力をいれ取り組んでいます。



1 検査の迅速化

- ① 外来検査における診察前検査への対応を徹底し、待ち時間の短縮に貢献。
- ② 24時間対応の緊急検査項目を他院検査部に比べかなり充実させました。
- ③ 救急医療、特に3次救急において、初療室に技師一人派遣し迅速対応をとっています。
- ④ 朝一採血された病棟患者様の検査については、主治医が出勤又は朝の病棟回診までに結果参照できるよう早朝より業務を開始しています。

2 精度の高い良質な検査データを提供

- ① 毎日行うコントロール検体による内部精度管理や日本臨床検査技師会、日本及び大阪府医師会等が行う外部精度管理調査に参加し、高い精度を維持しています。
- ② 専門性の高い高度な技術と知識を修得するため、各分野に認定制度が設けられています。当検査科においても現在多数の技師が認定資格を取得しています。

3 チーム医療の一員として貢献

- ① 栄養サポートや院内感染対策を支援し、より安全・安心の医療環境を守っています。
- ② 輸血医療における適正製剤使用の推進や病理解剖・CPCにも関与し、医療の質向上に努めています。

泉州救命救急センターの移管統合後、検査部では検体数が著しく増加しています。

このような取り組みを基本方針に、更に業務の効率化をすすめ、また今後出現する課題にも対処したいと考えています。

りんくう医療ネットワーク 登録医の先生のご紹介

登録医の先生をご紹介するコーナーです。当院では「かかりつけ医」と連携し、地域ぐるみで質の高い医療サービスを推進しています。

中川クリニック



中川 公彦 院長



「NICE SMILE」誌の「連携病院紹介ページ」に泉佐野泉南医師会地域の一診療所の紹介記事を書かせて頂きます。

当院は平成10年1月に現在地に於いて個人立の内科、胃腸科、外科の無床診療所として開設いたしました。大学卒業以来大阪大学第一外科の関連病院で消化器専門外科医として研鑽してきました。当、泉佐野市とのご縁は現在のりんくう総合医療センターの前身である当時の市立泉佐野病院外科部長として、昭和60年より平成9年3月末まで勤務していたことからのものです。当時はりんくうタウンへの新病院建設移転で大変慌ただしい時代であったと懐かしく思い出しています。開業医として独り立ちして以来それまでの外科勤務医として色々のスタッフや施設の諸設備にいかにも助けられていたかを改めて痛感する毎日でした。

近年は地区医師会の役員としても働いていますが、より細やかに地域住民の方々のお役にたてるように在宅医療も近隣の訪問看護センターの看護師さん達と連携して取り組んでいます。地区基幹病院としてのりんくう総合医療センターは我々開業医にとっては実に心強い存在であり、近年ではりんくう総合医療センター、市立貝塚病院、阪南市民病院との「なすびんネット」にも参加させて頂き、より密接な医療連携をめざしております。大阪大学外科教室同門の八木原理事長、伊豆蔵院長をはじめ各科の先生方には今後何かとご指導頂きたいと、この場を借りてお願いいたします。

中川クリニック

大阪府泉佐野市日根野5926-2
【TEL】072-461-1302
【FAX】072-461-1332

【診療科目】 内科、胃腸科、外科、リハビリ科
【受付時間】 午前 8:45～12:30
午後 18:00～20:00

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	×	○	○	×	×

医療法人 小川歯科



小川 秀三 院長

当院は昭和56年5月に泉佐野市上町3丁目近畿ビル3階に開院し、平成17年7月に泉佐野市上町3-13-18メディカルモールに移転しました。地域の歯科保健に貢献すべく努力しております。一般歯科治療から、予防歯科、歯周病治療、審美歯科、インプラント、レーザー治療、顎関節症の治療など、多岐にわたっております。

「抜かない、削らない、触らない」をモットーとして、自分の歯で過ごして頂けるように、当院では治療はもちろん、定期健診、予防、日頃のケアについてわかりやすく説明・指導しています。「体本来のものを変えたくない」という思いから、自然治癒力向上のために高周波を使用したり、鍼灸師によるつば療法を行う場合もあります。特に年輩の方に唾液を出すための、顔や歯ぐきのマッサージ指導を行っています。

ホワイトニングコーディネーターや歯ブラシアドバイザーなどの資格を持つスタッフも配置しており、治療だけではなく歯磨きの仕方や癖に対する指導なども行っています。

在宅訪問歯科診療も行っており、来る超高齢者社会の問題にも、対応すべく研鑽しております。

また、患者様をお待たせしないという目標に取り組んでおり、その一環として予約制を実施しています。より手軽に予約をお取り頂けるよう、携帯電話やパソコンを使ったインターネット予約で、24時間いつでも予約を受け付けられる体制を整えています。当院では歯に関するお悩みを何でも解決します。小さなことでも一人で悩まず、何でも当院にご相談ください。

当院は、今後も地域の基幹病院であるりんくう総合医療センターとの連携を強化し、治療を含めた総合的な地域歯科保健の促進を図るべく、努めてまいります。



医療法人 小川歯科

大阪府泉佐野市上町3丁目3-18
メディカルモール1F
【診療科目】 歯科、小児歯科

【TEL】072-464-2207
【FAX】072-464-8858

【受付時間】 午前 9:30～12:30
午後 14:00～19:30

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	○	○	×	×

時間外選定療養費について

当院の救急外来は、入院を必要とするような重症の患者さまや、緊急の処置・対応が必要な患者さまを最優先に24時間体制で診療しています。

しかし、時間外に受診される患者さまのなかには、緊急性の低い軽症の方が少なからずおられるため、重症患者さまへの迅速な対応に支障をきたす場合があります。

このような状況をすこしでも改善するために、**受診の結果、緊急受診の必要性が低いと判断した患者さまには時間外選定療養費をご負担していただくことといたしました。**

今後も地域の皆様に安全で質の高い救急医療を提供するため、ご理解とご協力をお願いいたします。

開始日

平成26年
11月1日(土)
より

○負担金額
5,400円(税込)

○対象時間

【平日】 17時から翌朝8時45分まで

【休日】 終日(土曜、日曜、祝日、年末・年始)

※当院で受診予約がある患者さまの緊急時には対応いたしますので、電話でお問い合わせください。 ☎ 072-469-3111

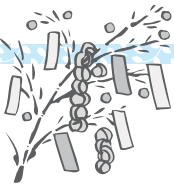
■緊急時の受診でお困りの場合はご相談ください。

- ◎救急安心センターおおさか <24時間365日>
☎ #7119 または 06 - 6582 - 7119
- ◎小児救急電話相談 <20時から翌朝8時まで>
☎ #8000 または 06 - 6765 - 3650

■土曜・日曜は 泉州南部初期急病センター をご利用ください。

- ◎泉州南部初期急病センター
☎ 072 - 464 - 6040

【この件の問い合わせ先】 りんくう総合医療センター 医療マネジメント課 ☎ 072 - 469 - 3111



七夕飾り

外来(看護師長) 松井 美智子

毎年外来看護師が中心となり、ささやかではありますが、患者さんやご家族の希望や目標が叶いますようにと、笹に短冊を飾り付ける七夕のイベントをおこなっています。2階エスカレーター横に笹を設置し、可愛い飾りつけを行い、どなたでも記入できるように短冊を準備しています。通院されている患者さんや入院患者さんをはじめ、そのご家族やお見舞いに来られた方が、短冊にそれぞれの願いを込めて書きこまれています。



編集後記

編集委員(放射線技術科) 早川 治男

厳しい暑さの毎日ですがいかがお過ごしですか。早いもので今年度も上半期を終えようとしています。

上半期の主なニュースは消費税8%に増税、「アナと雪の女王」観客動員数1,000万人突破、記録的豪雨、W杯日本予選敗退...etc 皆様はどの出来事が印象深かったでしょうか。

近頃はタブレット PC やスマートフォンの普及により様々な情報を自宅にいなくとも簡単に収集できる時代になりました。社会の動きや災害情報、エンターテインメントに至る様々な情報が手軽に扱えるのです。また今年の4月からは「なすびんネット」により医療情報も便利に利用出来るようになっております。「なすびんネット」という言葉も聞いたことない方は是非当院HPをご覧ください。

「備えあれば憂い(悪い)なし」様々な情報を上手く利用して食欲、スポーツ、お祭りの秋を迎える準備をしましょう。

人権標語 「人権はみんなが持つものを守るもの」